

国語 第4学年 冬の楽しみ

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書出版『国語（令和6年度版）』の12月配当を基にした授業案。教材本文・台詞・挿絵は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

季節を表す語を身近な経験と結び付け、音・色・動きなどの違いが伝わる文にする。行事を知っているかだけで評価せず、語を選んだ理由を確かめる。単元の終わりに残すのは、観察した場面、選んだ季節の語、様子を詳しくした短い文章。教材についての感想に加え、どの言葉をどう捉えたかが見える記録にする。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第3学年及び第4学年〕〔知識及び技能〕(1)オ	オ 様子や行動，気持ちや性格を表す語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し，語彙を豊かにすること。
〔第3学年及び第4学年〕B書くこと(1)エ	エ 間違いを正したり，相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして，文や文章を整えること。

単元の目標

様子や気持ちを表す語を増やし、季節の様子を表す文の中で使うことができる。伝えたい様子が明確になるよう、表現を確かめて文を直すことができる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①様子や気持ちを表す語を増やし、季節の様子を表す文の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)オ）	①「書くこと」において、伝えたい様子が明確になるよう、表現を確かめて文を直している。（B(1)エ）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

単元の流れ

光村図書出版の年間指導計画による全2時間（書②）。総時数は出典に従い、各時間の活動と本時の選定は本案の提案として組んでいる。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○季節の語を身近な経験や資料と結び付ける。冬の空気や音などから印象に残った特徴を選び、触覚や聴覚を表す語を比べる。	学習状況を見て支援する。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第2次	2 （本 時）	○様子を伝える文章を書く。読み合って説明の足りない部分を直す。	思①（発言・学習記録）



本時の案

本時の目標：伝えたい様子が明確になるよう、表現を確かめて文を直すことができる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （ 分）	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「季節の様子を知らない人にも伝えるには、どの言葉を加えるとよいですか」 【めあて】季節を表す語を身近な経験と結び付け、音・色・動きなどの違いが伝わる文にする。 〈予想される児童の反応〉 ・色だけでなく動きを表したい。	本時に考える対象を確認し、既に分かったことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 （ 分）	○「季節の様子を知らない人にも伝えるには、どの言葉を加えるとよいですか」 様子を伝える文章を書く。読み合って説明の足りない部分を直す。 観察した場面、選んだ季節の語、様子を詳しくした短い文章。 自分が選んだ言葉とその理由を相手に説明する。聞き手は、意図した意味が伝わった箇所と確かめたい箇所を返す。 〈予想される児童の反応〉 ・色だけでなく動きを表したい。 ・同じ寒いでも場所によって感じが違う。 ・友達の言葉から別の場面を想像できた。	身近に見聞きしたものを、見たこと・聞いたこと・感じたことに分ける。独自例「風が吹いた」と「冷たい風がほおをかすめた」を比べ、付け加えた語が何を伝えるか説明する。経験がなければ教師が示す資料の観察で書く。冬の観察では、空気の冷たさや音の聞こえ方など自分が確かめられた特徴を選ぶ。地域に雪があると決めず、実際の経験や資料にある様子から書く。 想定するつまずき：季節の語を並べるだけで見た場面が伝わらない、経験していない行事を経験として書く。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 伝えたい様子が明確になるよう、表現を確かめて文を直している。（発言と学習記録）
まとめ （ 分）	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって分かったことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・友達の言葉から別の場面を想像できた。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った具体的な言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って自分の表し方を確かめる。 ◎態①（学習前後の記録と、見直した理由）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「季節の様子を知らない人にも伝えるには、どの言葉を加える
とよいですか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の
本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を
線で結ぶ。左端に、本時で確かめた具体的な言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。
縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

つまずきやすい所と手当て

つまずきとして、季節の語を並べるだけで見た場面が伝わらない、経験していない行事を経験として書
く。この場合は、身近に見聞きしたものを、見たこと・聞いたこと・感じたことに分ける。独自例「風が
吹いた」と「冷たい風がほおをかすめた」を比べ、付け加えた語が何を伝えるか説明する。経験がなけれ
ば教師が示す資料の観察で書く。冬の観察では、空気の冷たさや音の聞こえ方など自分が確かめられた特
徴を選ぶ。地域に雪があると決めず、実際の経験や資料にある様子から書く。おおむね満足できる状況
は、伝えたい様子が明確になるよう、表現を確かめて文を直しているという姿で捉える。語句や本文を示
さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

プリントの案

単元の学習メモ

観察した場面、選んだ季節の語、様子を詳しくした短い文章。教科書の文章・図は印刷せず、自分で確かめた箇
所の見出しや、自分の言葉で内容を記す欄にする。

交流と見直しの記録

交流前の自分の考え、友達が伝えた言葉、その後の自分の考え、変えた又は残した理由を並べる。友達の考えに合
わせることを求めず、判断の理由が分かるようにする。

出典：光村図書出版 年間指導計画。教材名・配当時数・時期・重点項目の出典。年間指導計画例 Excel（4年）「4年下巻」
60行目（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/3db56761-ee29-4e40-81b8-d9480c60cd85/368）

／文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）。原文は手元の公式表の写しと照合。

（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のため
の学習評価に関する参考資料 小学校 国語。評価規準の観点と記録の考え方。

（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

